

「介護に必要なのはスタッフの人間力だ」
と語る植村代表取締役

—東京・有楽町の本社（谷内誠撮影）



うえむら・けんじ 昭和41年6月7日、
埼玉県生まれ。平成元年、早稲田大学卒業
後、上場住宅デベロッパーへ入社。10年に
東証一部上場企業常務取締役、16年11月、
アズパートナーズを設立、現在に至る。

「ホームが本場の意味で終
の棲家になることが大切。そ
のためには、医療との連携、
スタッフのスキルも必要だ」
今後、介護が必要な高齢者
はますます増えるが、「質の
良いサービスを適正な価格で
提供していく姿勢を貫きた
い」と自信をのぞかせた。

ほっと

インタビュー

スタッフの“人間力”養う

アズパートナーズ代表取締役

植村健志さん (45)

首都圏で「アズハイム」の
名前で、有料老人ホームを9
棟運営する。その会社設立時、
社名に「常にあらゆる人の良
いパートナーでありたい」と
いう気持ちを込めた。

「長く、マンションの販売、
企画の仕事をしていて、ずっ
と、高齢者の住まいはこれだ
いいのか」という思いがあり
ました。核家族が当たり前の
時代、特に住宅事情の厳しい
首都圏で、年輩いた親をマン
ションに引き取って生活する
のは難しい。介護付きホーム
はたくさんあっても、ハード、
ソフトともにもっと充実させ
ないといけないと思っていま
した」

年1〜2棟のペースで、50
〜80室のホームを開設して
きた。来年3月に横浜で10
棟目のホームを開設予定だ
が、「急速な拡大路線を取ら
ず、地道に増やしてきて良か
った。年ごとに、アズハイ
ムは良い」という評価が増え
てきました」という。

その間、最も力を入れてき
たのは、人材の養成だ。
「おいしい食事を提供し、
サービスの質を上げるのは当
たり前のこと。そこに、常に
入居者の方々の希望に合った
ものを、と考えてきました。
この業界はスタッフの離職率
や待遇が問題視されることが
ある。当社は個々のスタッフ
をきっちり評価します。仕事
の成果に対する評価が一律な
のはおかしい。金銭面でも成
果を反映した待遇にしていま
す。介護のテクニクを競う
のではなく、スタッフが明る
く、元気に働ける場を作る。
現場でのあいさつ、目を見
て話す、入居者の家族と向き
合って話をするなどを徹底さ
せ、「入居者の方々はすべて
人生の先輩。われわれが教え
ていただく姿勢できちんと対

住まいる
情報局